



会期：2025年 7月 12日 [土]－2026年 1月 12日 [月・祝]

主催・会場：原美術館ARC

マークの作品は写真撮影が可能です。○マークをタップすると解説が表示されます。●は音声ガイドがございます。
ギャラリー内での飲食および、作品に触れることはできません。小さいお子様は大人の方と手をつないで鑑賞下さい。

Gallery A 〈私は夢見る〉					
作家名		作品名	制作年	素材・技法	サイズ
○	横尾忠則	DNF: 暗夜光路 眠れない街	2001	カンヴァスにアクリル絵具	182 x 227.5 cm
○	大竹伸朗	網膜 #2 (紫影)	1988-1990	写真、布テープ、プラスチック樹脂、木製パネル	250.8 x 180.8 x 7.3 cm
	ジョナサン ポロフスキー	ベルリンの犬の夢	1986	リトグラフ、鉄、アクリル	86.5 x 106.5 cm
○	ジョナサン ポロフスキー	私は夢見た・・・	1983	紙にアクリル絵具、シルクスクリーン	205 x 256.5 cm (フレーム)
	ジョナサン ポロフスキー	かばんを持った男 No. 3274726	1990	木版、手彩色、コラージュ、手漉紙	235 x 100.6 cm
	ジョナサン ポロフスキー	割れたピカソの夢	1990	リトグラフ、シルクスクリーン	143.5 x 100.3 cm
○	シグマー ポルケ	無題 (天窓の光の中の頭部)	1983	カンヴァスに油彩、ラッカー	259.7 x 199.4 cm
○	フランチェスコ クレメンテ	エトラスカン チャイナ	1987	カンヴァスに油彩、黒鉛	297.8 x 197.2 cm
○	ヤン ファーブル	チボリ	2007	チバクローム、ボールペン	142.4 x 102.8 cm
	奈良美智	Fountain of Life	2001	FRP	175 x d.180 cm 作家寄託

Gallery B 〈夢と現実のあわい〉					
作家名		作品名	制作年	素材・技法	サイズ
○	ヘラルド スッテル	唄	1994	ゼラチンシルバープrint	45.5 x 36.4 cm
○	ヘラルド スッテル	Ozomatli (サル)	1987	ゼラチンシルバープrintに加工	32.5 x 26 cm
○	ヘラルド スッテル	Coatlicue (大地の女神)	1991	ゼラチンシルバープrintに加工	45.5 x 36.4 cm
	ロバート メープルソープ	花	1979	ゼラチンシルバープrint	35 x 35 cm
	ロバート メープルソープ	花	1981	ゼラチンシルバープrint	35 x 35 cm
	ロバート メープルソープ	花	1977	ゼラチンシルバープrint	48.3 x 38.3 cm
○	米田知子	藤田嗣治の眼鏡―日本出国を助けた シャーマンGHQ民政官に送った電報を見る	2015	ゼラチンシルバープrint	75 x 75 cm
○	アルマン	時計	1979	プレキシグラス、腕時計	32.5 x 25 x 5 cm
●	宮島達男	時の連鎖	1989/1994/ 2021	発光ダイオード、IC、電線	22 x 475 x 4.7 cm 22 x 237.5 x 4.7 cm
○	佐藤時啓	S. L. #1	1992	ゼラチンシルバープrint	78.5 x 63 cm
○	フランチェスカ ウッドマン	Untitled, Providence, Rhode Island	1975-1978	ゼラチンシルバープrint	25.4 x 20.3 cm
○	フランチェスカ ウッドマン	Untitled, Providence, Rhode Island	1976	ゼラチンシルバープrint	25.4 x 20.3 cm
○	フランチェスカ ウッドマン	Untitled, Macdowell Colony, Peterborough, New Hampshire	1980	ゼラチンシルバープrint	25.4 x 20.3 cm
○	フランチェスカ ウッドマン	Seven Cloudy Days, Rome	1977-1978	ゼラチンシルバープrint	25.4 x 20.3 cm
○	シンディ シャーマン	アンタイトルド フィルム スティル	1978	写真	21 x 26 cm
○	シンディ シャーマン	アンタイトルド フィルム スティル	1980	写真	26 x 21 cm

○	やなぎみわ	砂女	2005	ビデオ	10分
	やなぎみわ	無題 I	2004	ゼラチンシルバークプリント	140 x 101 cm
	やなぎみわ	無題 IV	2005	ゼラチンシルバークプリント	140 x 101 cm
📷 ○	横尾忠則	葬列 II	1969/1985	アクリル板にシルクスクリーン	74.5 x 113.5 x 9 cm
📷 ●	坂田栄一郎	江ノ島	2004	カラー写真	100 x 119.2 cm
📷 ●	森村泰昌	美術史の娘、マハC	1990	カラー写真に透明メディウム (フレーム)	265 x 145 cm (フレーム)
📷 ○	名和晃平	PixCell [Skull]	2003	ミクストメディア	23 x 26 x 29 cm
📷 ●	奈良美智	My Drawing Room	2004/2021	ミクストメディア	312 x 200.5 x 448 cm
📷 ●	束芋	真夜中の海	2006/2008	ビデオインスタレーション	4分

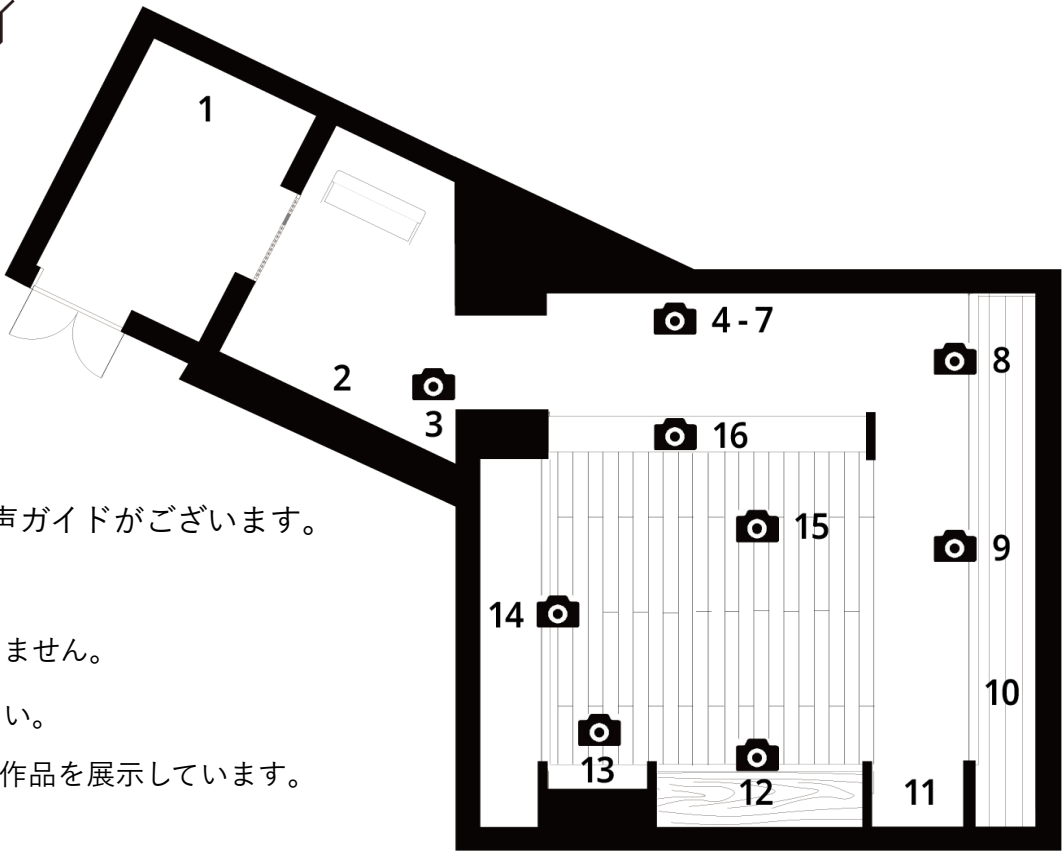
Gallery C 〈夜を越え出て〉					
	作家名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ
📷 ○	増田佳江	flower bed	2007	カンヴァスに油彩	145.5 x 112 cm
📷 ○	ヴィルヘルム サスナル	無題	2007	カンヴァスに油彩	160 x 160 cm
📷 ○	イケムラレイコ	無題	1988	紙にチョーク、パステル	79.0 x 59.5 cm
📷 ○	安藤正子	あぶく	2010	パネル張りカンヴァスに油彩	60.4 x 60.3 cm
📷 ○	奈良美智	Eve of Destruction	2006	カンヴァスにアクリル絵具	117 x 91 cm
📷 ○	カレル アペル	ヒロシマの子供	1958	カンヴァスに油彩	163.7 x 132.1 cm
📷 ○	加藤美佳	みんなのお墓	2006	カンヴァスに油彩	117.5 x 90 cm
○	マーク ロスコ	赤に赤	1969	カンヴァス上の紙にアクリル絵具	134.4 x 101.5 cm
○	ピエール スーラージュ	無題	1959	カンヴァスに油彩	113.7 x 87 cm
○	中里斉	chi su ma	1970	カンヴァスに墨	217 x 174 cm
	藤本由紀夫	18 x 18 (screen)	2007	ミクストメディア	200 x 100 x 10 cm
○	アンゼルム キーファー	メランコリア	1988	木の蔓、写真、鉛、ガラス貼スチールフレーム	171.8 x 241.7 cm
○	ジュルツ オリツキー	魂の歓喜	1983	カンヴァスにアクリル絵具、石膏	172 x 116 cm
○	ラスロ ラクナー	デュシャン	1980	カンヴァスに油彩	206 x 156.3 cm
	宮脇愛子	メグ	1972	ガラス	20 x 120 x 81.5 cm
●	草間彌生	ミラールーム (かぼちゃ)	1991/1992	ミクストメディア	200 x 200 x 200 cm

展示室外					
	作家名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ
📷	ソル ルウィット	不完全な立方体	1971	アルミニウムにペイント	120 x 120 x 120 cm
📷	三島喜美代	Newspaper-84-E	1984	セラミック、シルクスクリーン	105 x 74 x 102 cm

会期：2025年 7月 12日 [土]－2026年 1月 12日 [月・祝]
主催・会場：原美術館ARC

Gräumerei

トロイメライ



📷 マークの作品は写真撮影が可能です。
○ をタップすると解説が表示されます。 ● は音声ガイドがございます。

展示室内では飲食および、作品に触れることはできません。
小さいお子様は大人の方と手をつないでご鑑賞下さい。
* 番号の記載はございませんが、須田悦弘の小さな作品を展示しています。

特別展示室 観海庵 〈 景色の中へ 〉					
	作家名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ / 員数
1	崔在銀	もう一つの月	2010	ヴィデオインスタレーション	可変
2	デヴィッド ナッシュ	ビッグ ラフ オブジェ (1985年5月暮坂峠)	1985	紙にアクリル絵具	80.7 x 112.7 cm
3 📷	須田 悦弘	此レハ飲水二非ズ「曼珠沙華」	2001/2021	木に彩色	25 x 25 x 51 cm
4 📷 ●	杉本博司	BLACK SEA Inebolu, 1991	1989	ゼラチンシルバープリント	65.8 x 84 cm (フレーム)
5 📷 ●	杉本博司	Pacific Ocean, Oregon II	1988	ゼラチンシルバープリント	65.8 x 84 cm (フレーム)
6 📷 ●	杉本博司	TYRRHENIAN SEA Amalfi, 1990	1990	ゼラチンシルバープリント	65.8 x 84 cm (フレーム)
7 📷 ●	杉本博司	IONIAN SEA Santa Cesarea, 1990	1990	ゼラチンシルバープリント	65.8 x 84 cm (フレーム)
8 📷 ○	加藤泉	無題	2008	木、油絵具、アクリル絵具、石	168 x 42 x 42 cm
9 📷 ●	作者不詳	むさしのずびょうぶ 武蔵野図屏風	江戸時代 17世紀前期	紙本金地著色	八曲一隻
10 ○	菅井汲	月	1957	カンヴァスに油彩	130 x 97 cm
11	倉俣史朗	ランプ オバQ	1972	乳白色プラスチック板 加工に照明を内蔵	58.5 x d.70 cm
12 📷 ●	狩野派	そうれいばくふず 層嶺瀑布図 *	桃山～江戸時代 16～17 世紀	紙本墨画	一幅
13 📷		ひらめじしゅんじゅうまきえずりばこ 平目地春秋蒔絵硯箱	不詳	平目地蒔絵	一具
14 📷 ●	狩野派	ききょらい・ほうはっかんず 帰去来・放白鷗図 *	桃山～江戸時代 16～17 世紀	紙本墨画	四幅
15 📷	戸谷成雄	地霊	1991	鉄、木、灰、アクリル絵具、ガラス	32 x 119 x 61 cm
16 📷 ○	作者不詳	けんがくほうしえことば 賢学法師絵詞 (模本)	江戸時代 17～19世紀	紙本著色	一卷

* 三井寺旧日光院客殿障屏画

■作品解説

4-7. 杉本博司「海景」シリーズ

杉本博司（1948-）は写真というメディアを技術的にも美学的にも熟知し、世界各国の主要な美術館の展覧会に出品しながら優れた作品を生み出してきた。1989年に毎日芸術賞、2001年にハッセルブラッド国際写真賞を受賞している。1980年に始まる「Seascapes」シリーズは、世界各地の様々な海と空をシンプルで厳格、そして禁欲的に同じ構図で撮りつづけ、崇高さの中に時間についてのイメージを提示した代表作として知られている。

英語の「photograph=写真」とはギリシャ語の「photo=光」と「graph=描く」から作られた言葉であるが、杉本の写真は多くがモノクロームであるがゆえに純粋な光のイメージを感じさせ「Seascapes」における昼の海と夜の海も「photograph」すなわち「光の絵画」と呼ぶにふさわしい。

9. 作者不詳「武蔵野図屏風」 江戸時代（17世紀前期）

武蔵野は現在の埼玉県南部～東京都西部、神奈川県の一部にまたがる平地。荒涼として遮るものがなく、その野趣に様々な想いを託した和歌が多く詠まれ、『万葉集』をはじめ、『伊勢物語』にもその名が見られる。季節や名所にちなむ景物画は近世初期から描かれ始めるが、そのなかで「武蔵野図」と呼ばれる一連の作品が制作された。引手跡のある本図は、古くから歌に詠まれた武蔵野のイメージを描いた襖絵であったと考えられる。

屏風の画面左上部の三日月は厚みのある金属をはめて表現し、金雲は金箔で表している。薄の穂の形や萩の葉の色調にやや形式化が見られるものの、風に吹かれる草花の様子、細く緩やかな曲線を重ねた薄の葉の繊細な描写が、画面の枠を超えて野原の広がりを感じさせ、秋の風情をうつし出している。

10. 菅井汲「月」 1957年

1952年にパリへ移住、2年後にはパリで初個展を開いた菅井汲（1919-1996）は、初期には「月」にみられるように、おおらかで力強い筆触による形態と繊細なマチエールを生かしたアンフォルメル絵画を制作。1960年代に入ると作風は大きく変化し、シンプルで幾何学的な抽象形態と原色を取り入れた鮮やかな色彩による明快な構成になっていく。ドイツ・カッセルのドクメンタ（1959、1964）、サンパウロ ビエンナーレ（1965、最優秀外国作家賞）、ヴェネツィア ビエンナーレ（1962, 1968）など、国際展への出品・受賞多数。

12. 狩野派「層嶺瀑布図」（三井寺旧日光院客殿障屏画） 桃山～江戸時代（16～17世紀）

障壁画を収める箱に「層嶺瀑布図」「人物山水之図」とそれぞれ墨書された3幅は、一連の図として壁に貼られていた。箱書によれば、日光院客殿の上段の床（とこ）の壁貼付絵であったと考えられる。

山々の間を縫って流れ落ちる滝の水流を力強い筆致で描き上げる1幅。一方、2幅には、風水洞に駒をつないで待つ美少年李節推（りせっすい）と橋を渡り訪ねる中国の詩人蘇東坡（そとうば）の姿が描かれる。

なお、東京藝術大学に原寸大の模本（マクリ4枚）があり、原図の形状が壮大な床壁貼付であったことが確認されている。＊今回の展示では「層嶺瀑布図」1幅のみを展示しています。

14. 狩野派「帰去来・放白鷗図」（三井寺旧日光院客殿障屏画） 桃山～江戸時代（16～17世紀）

中国の詩人陶淵明（とうえんめい、365-427）が詠んだ『帰去来辞』をもとに描かれたものである。詩には官僚生活に終止符を打って帰郷し、田園で余生を過ごす心境が語られる。ここでは童子をともない帰郷する陶淵明と思われる人物とそれを迎える人々や犬が描かれる。風にそよぐ大きな柳や陶淵明が愛でたという菊の花も見える。続く、鳥を放つ場面は画題を別にし、「放白鷗図」とされている。「帰去来図」と箱書に記された6幅は、日光院客殿次ノ間（8帖）東側の襖絵であったと考えられている。＊今回の展示では「放白鷗図」4幅のみを展示しています。

「三井寺旧日光院客殿障屏画」について

狩野派の描いた三井寺旧日光院客殿障壁画は、滋賀県の三井寺（園城寺）（みいでら、おんじょうじ）の塔頭の一つ、日光院客殿をかつて飾った襖絵である。明治25年（1892）、原六郎が日光院客殿を建物ごと買い取り、品川御殿山（現東京・品川区北品川）の自邸に移築したもので、現在、襖絵は掛幅と屏風に改装されている。

なお、日光院客殿は昭和3年（1982）、護国寺（東京・文京区音羽）に月光殿として移築保存、重要文化財に指定されている。